

【調査結果（単純集計データ）】

(注1) 回答欄に併記された計数は、断りのない限り、選択肢形式の場合は回答比率(％、小数第2位四捨五入)、数値記入形式の場合は合計項目の回答世帯を分母とする平均値(単位未満四捨五入、特に断りのない限りゼロは含めない)を示す。回答ゼロの項目は－で示す。なお、無回答者を掲記していないため、単数回答項目についてその回答比率の合計は必ずしも100にならない。

(注2) 本調査票は、WEB上での調査画面とは異なる。

*この調査で「金融資産」とは、預貯金などの金融商品を指します。お答えいただく際には、以下の点にご留意ください。

- ① 「金融資産」には、土地・住宅・貴金属等の実物資産は含みません。また、現金も含みません。
- ② 商・工業や農・林・漁業等の事業のために保有している金融資産は除いてください。
- ③ 預貯金については、定期性預金・普通預金等の区分にかかわらず、運用の為または将来に備えて蓄えている部分を「金融資産」とし、日常的な出し入れ・引落しに備えている部分は除いてください。

[詳しくは問3(a)をご覧ください。]

*なお、この調査で「貯蓄する」とは金融資産取得に資金を振り向けることを言います。

問1

あなたは、(a)過去1年間に手取り収入(税引後)の何％(小数点以下は四捨五入)ぐらいを貯蓄しましたか。

また、(b)年間手取り収入のうちボーナスや臨時収入(税引後)からは何％(小数点以下は四捨五入)ぐらいを貯蓄しましたか。

該当する番号に○印をつけてお答えください。

(記入例)

例えば、年間手取り収入100万円のうち

5万円を貯蓄した場合 →

	5
--	---

 %

12万5千円を貯蓄した場合 →

1	3
---	---

 %

とご記入ください(小数点以下は四捨五入)。

- | | | | | | | |
|-----|----------------------|------|---|------|---|-----------|
| (a) | { | 1 | 年間手取り収入の <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">1</td><td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">4</td></tr></table> (注1) %ぐらいを貯蓄した。 | 1 | 4 | (注2) 50.1 |
| | | 1 | 4 | | | |
| 2 | 年間手取り収入から貯蓄を全くしなかった。 | 49.9 | | | | |
| (b) | { | 1 | ボーナスや臨時収入の <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">3</td><td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">8</td></tr></table> (注1) %ぐらいを貯蓄した。 | 3 | 8 | 26.3 |
| | | 3 | 8 | | | |
| | | 2 | ボーナスや臨時収入から貯蓄を全くしなかった。 | 14.8 | | |
| 3 | ボーナスや臨時収入がなかった。 | 58.9 | | | | |

(注1) 問1(a)の1および(b)の1に示す割合は、貯蓄しなかった世帯を含む平均割合。

(注2) 欄外に記した数値は、各選択肢への回答率を表す(分母は全サンプル)。

問 2

(a) あなたは、現在、金融資産を保有していますか。(〇は1つ)

- 1 金融資産を保有している。 → 問3へ 51.9
- 2 金融資産を保有していない。 → 問4へ 48.1

【(a)で2と回答した方にお聞きします。】

(b) 銀行等の預貯金口座、または証券会社等の口座をお持ちですか。(〇は1つ)

(注) 銀行等には、ゆうちょ銀行、信金・信組、農協・漁協などの金融機関を含む。

- 1 口座を保有していて、現在、残高がある。 70.1
- 2 口座は保有しているが、現在、残高はない。 17.9 → 問4へ
- 3 口座を保有していない。 12.0

【(b)で1と回答した方にお聞きします。】

(c) 保有している預貯金口座の残高は、現在どのくらいありますか。

(注) 預貯金口座残高のうち、商・工業や農・林・漁業等の事業のために保有している部分は除き、日常的な出し入れ・引落しに備えている部分は含めてお答えください。

	億	千万	百万	十万	万円
現在保有している 預貯金口座残高合計			1	0	8

(注) 問2(c)に示す残高については、万円未満を四捨五入してゼロと回答した世帯を含む平均値。

【問2(a)で1と回答した方にお聞きます。】

問3

(a) 現在の金融商品別残高（現金を除き、外貨建金融商品を含めます）およびその合計額はどのくらいですか。（ゼロの場合は「0」を記入）

	現在の残高					記入に当たっての注意	
	億	千万	百万	十万	万円		
1 預貯金			4	0	1	定期性預金・普通預金等の区分にかかわらず、運用の為または将来に備えて蓄えている部分とし、日常的な出し入れ・引落しに備えている部分は除いてください。ゆうちょ銀行の貯金、外貨預金（円換算額）を含みます。	98.1
うち定期性預貯金			1	8	5	期間の定めのある預貯金。	56.9
2 金銭信託・貸付信託					4	ヒットを含みます。	3.0
3 生命保険				8	6	これまでに払い込んだ保険料の総額。学資保険、養老保険、外貨建分（円換算額）を含みます。ただし、既に給付を受けた分や掛け捨ての保険、年金型商品は除きます。	35.6
4 損害保険					6	これまでに払い込んだ保険料の総額。ただし、既に給付を受けた分や掛け捨ての保険、年金型商品は除きます。	11.0
5 個人年金保険				5	5	これまでに積み立てた掛け金の総額。外貨建分（円換算額）を含みます。ただし、既に給付を受けた分や厚生年金、国民年金、公務員共済など公的年金および確定拠出年金の掛け金は除きます。	24.7
6 債券				4	1	時価（現在の相場）で記入してください。不明なら額面でもかまいません。外貨建分（円換算額）を含みます。	8.5
7 株式			1	2	6	従業員持株制度による株式、外貨建分（円換算額）を含みます。時価（現在の相場）で記入してください。	36.9
8 投資信託				6	5	時価（現在の相場）で記入してください。不明なら額面でもかまいません。MRF（マネー・リザーブ・ファンド [®] 〈証券総合口座用ファンド〉）、MMF（マネー・マネジメント・ファンド [®] ）、REIT（不動産投資信託）および外貨建分（円換算額）を含みます。	25.7
9 財形貯蓄				1	2	一般財形、財形年金、財形住宅の合計額。	7.8
10 その他金融商品				2	5	金貯蓄口座など。また、オプション取引や先物取引などの金融派生商品。外貨建分（円換算額）を含みます。	8.5
合計（1～10の総計）			8	2	2	金融商品別残高（1～10）、合計のいずれにおいても、外貨建金融商品（円換算額）を含みます。	100.0
<参考1> NISA （少額投資非課税制度）			1	2	4	上記合計のうち、NISA口座で保有する残高。	
<参考2> 確定拠出年金 （個人型）			1	5	3	国民年金基金連合会に申し込んだ個人型年金（企業型年金は該当しません）で、これまでに拠出した総額。上記の1～10の金額には含みません。	

【外貨建金融商品を保有している方にお聞きします。】

- (b) (a)でお答え頂いたもののうち、現在、保有している外貨建金融商品の残高(記入時点の為替相場による円換算額)を下表にご記入ください。(ゼロの場合は「0」を記入)

	億	千万	百万	十万	万円
現在の外貨建金融商品残高合計			5	4	5

(注) 問3 (a) に示す平均残高については、金融資産を保有しない世帯およびゼロと回答した世帯を含む平均値。欄外に記した数値は、合計項目ないしいずれかの商品項目に金額回答した世帯の全数を分母とし、各商品の金額回答世帯を分子とする保有率(％、小数点第2位四捨五入)を示す。また、「<参考1>NISA」「<参考2>確定拠出年金」および問3 (b) 「現在の外貨建金融商品残高合計」については、金融資産保有世帯のうち、各項目の金額回答世帯の平均値。

【全員にお聞きします。】

問4

金融資産の保有状況について、あてはまる回答をお選びください。(○は1つ)

- | | | |
|---|---|------|
| 1 | 昨年まで現金や普通預金など流動性の高い預貯金で保有していた資金を、今年は定期性預金など運用期間の長い金融資産や、株式などのリスク資産に振り向けた。 | 7.6 |
| 2 | 昨年まで定期性預金など運用期間の長い金融資産や株式などリスク資産で保有していた資金を、今年は現金や普通預金などの流動性の高い預貯金に振り向けた。 | 5.3 |
| 3 | いずれにもあてはまらない。 | 87.1 |

問5

あなたは、保有する金融商品を決める場合に、どのようなことに最も重点をおいて選んでいますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------------------|------|
| 1 利回りが良いから。 | 18.3 |
| 2 将来の値上がりが期待できるから。 | 14.6 |
| 3 元本が保証されているから。 | 26.6 |
| 4 取扱金融機関が信用できて安心だから。 | 5.1 |
| 5 商品内容が理解しやすいから。 | 5.6 |
| 6 現金に換えやすいから。 | 8.8 |
| 7 少額でも預け入れや引き出しが自由にできるから。 | 9.9 |
| 8 その他 | 11.1 |

(注) 「金融資産を保有している」世帯における比率。

問6

(a) 運用していた資金が元本割れした経験はありますか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------------|------|-------|
| 1 元本割れの経験がある。 | 30.3 | |
| 2 元本割れの経験はない。 | 69.7 | → 問7へ |

↓ 【(a)で1と回答した方にお聞きします。】

(b) あなたは、元本割れという運用結果について、どのようにお考えですか。

(〇は1つ)

- | | |
|--|------|
| 1 自分の相場についての予想が外れたのであるから、それは仕方がない。 | 71.1 |
| 2 自分が相場の変動によって元本割れするリスクをよく理解していなかったためであるから、それは仕方がない。 | 19.8 |
| 3 相場の変動によって元本割れするリスクを金融機関が十分に説明しなかったためだ。 | 3.8 |
| 4 著しい誤解を招く広告、勧誘を金融機関から受けたためだ。 | 5.3 |

【全員にお聞きします。】

問7

現在の金融資産残高は1年前と比べて増えましたか、あるいは減りましたか。(○は1つ)

(注) 割合は、ゼロを含んだ平均値。計数は「金融資産を保有している」世帯における比率。

- | | | |
|---|--------|------|
| 1 | 増えた。 | 35.6 |
| 2 | 変わらない。 | 34.0 |
| 3 | 減った。 | 30.4 |

問9へ

増えた割合、または減った割合を以下にご記入ください。

- 増えた割合は、約 割
- 減った場合は、約 割

問8

【問7で1と回答した方にお聞きします。】

(a) 「増えた」理由は何ですか？(○はいくつでも)

- | | | |
|---|-------------------------------|------|
| 1 | 定例的な収入が増加したから。 | 45.2 |
| 2 | 定例的な収入から貯蓄する割合を引き上げたから。 | 32.9 |
| 3 | 配当や金利収入があったから。 | 14.1 |
| 4 | 土地・住宅等の実物資産の売却による収入があったから。 | 1.5 |
| 5 | 相続、退職金等による臨時収入があったから。 | 2.6 |
| 6 | 株式、債券価格の上昇により、これらの評価額が増加したから。 | 12.6 |
| 7 | 扶養家族が減ったから。 | 0.0 |
| 8 | その他 | 16.0 |

【問7で3と回答した方にお聞きします。】

(b) 「減った」理由は何ですか？(○はいくつでも)

- | | | |
|---|---------------------------------|------|
| 1 | 定例的な収入が減ったので金融資産を取り崩したから。 | 39.5 |
| 2 | 土地・住宅購入費用の支出があったから。 | 4.1 |
| 3 | 耐久消費財(自動車、家具、家電等)購入費用の支出があったから。 | 8.6 |
| 4 | こどもの教育費用、結婚費用の支出があったから。 | 1.3 |
| 5 | 旅行、レジャー費用の支出があったから。 | 11.9 |
| 6 | 株式、債券価格の低下により、これらの評価額が減少したから。 | 47.1 |
| 7 | 扶養家族が増えたから。 | 1.0 |
| 8 | その他 | 15.9 |

【全員にお聞きします。】

問 9

あなたは、どのような目的で金融資産を保有していますか。（〇は3つまで）

1	病気や不時の災害のときに備えるため。	44.1
2	こどもの教育資金にあてるため。	1.6
3	こどもの結婚資金にあてるため。	0.3
4	住宅（土地を含む）の取得または増改築などの資金にあてるため。	7.0
5	老後の生活資金にあてるため。	49.9
6	耐久消費財（自動車、家具、家電等）の購入資金にあてるため。	8.6
7	旅行、レジャーの資金にあてるため。	18.8
8	納税資金にあてるため。	1.9
9	遺産として子孫に残してやりたいから。	2.2
10	とくに目的はないが、金融資産を保有していれば安心なため。	29.4
11	その他	7.6

（注）「金融資産を保有している」世帯における比率。

問 10

あなたは、将来、遺産（不動産などの実物資産を含む）をどのようにしたいと思いますか。一番近い考え方をお選びください。（〇は1つ）

（注）こどもが現在いない場合でも、将来の予定を考えてお答えください。

1	自分の老後の世話をしてくれるならば、こどもに財産を残してやりたい。	11.6
2	自分の家業を継いでくれるならば、こどもに財産を残してやりたい。	1.2
3	自分の老後の世話をしてくれるかどうかや、家業を継いでくれるかどうか等に関わらず、こどもに財産を残してやりたい。	13.0
4	自分の財産をこどもが当てにして働かなくなるといけないので、困っている人や社会・公共の役に立つような使い道を考えていきたい。	2.2
5	財産を残すこどもがいないので、自分の財産については、困っている人や社会・公共の役に立つような使い道を考えていきたい。	4.9
6	財産を残すこどもがいないうえ、自分の人生を楽しみたいので、財産を使い切りたい（使い切れずに財産を残すことはある）。	29.8
7	こどもはいるが、自分の人生を楽しみたいので、財産を使い切りたい（使い切れずに財産を残すことはある）。	7.1
8	その他	30.2

問 1 1

あなたは、現在どのくらいの金融資産残高を目標にしていますか。下表に数値をご記入ください。（ゼロの場合は「0」を記入）

	億	千万	百万	十万	万円
金融資産目標残高		2	9	0	3

問 1 2

あなたの金融商品の保有希望について、お聞きします。今後、1～2年の間に保有額を増やしたり、保有を始めてみようとして具体的に考えている金融商品があれば、その番号に○印をつけてください。（○はいくつでも）

1	預貯金（ゆうちょ銀行の貯金を含む）	44.7
2	信託（ヒットなど）	2.2
3	積立型保険商品（生保・損保）	2.6
4	個人年金保険	6.5
5	公共債（国債など）	2.9
6	公共債以外の債券（社債など）	1.4
7	株式	16.5
8	株式投資信託	7.3
9	公社債投資信託（MMFなど）	2.0
10	外貨建金融商品（外貨預金、外債、外貨建投信など）	5.2
11	不動産投資信託	3.0
12	保有希望はない	38.4

問 1 3

あなたは、元本割れを起こす可能性があるが、収益性の高いと見込まれる金融商品について、今後、1～2年の間にどのくらい保有しようと考えていますか。（○は1つ）

1	そうした商品についても、積極的に保有しようと思っている。	10.0
2	そうした商品についても、一部は保有しようと思っている。	25.2
3	そうした商品を保有しようとは全く思わない。	64.9

問 1 4

- (a) あなたは、日常的支払い（買い物代金等）について、金額に応じて資金決済手段をどのように使い分けていますか。金額ごとによく利用している決済手段を選んでください。（○は2つまで）

		現金 (紙幣および硬貨)	クレジット ・カード	電子マネー (デビット・ カード含む)	その他
1,000 円以下	⇒	82.5	20.5	32.2	5.2
1,000 円超 5,000 円以下	⇒	70.2	41.2	22.4	4.3
5,000 円超 10,000 円以下	⇒	56.2	56.9	9.6	5.0
10,000 円超 50,000 円以下	⇒	42.7	68.0	5.3	5.4
50,000 円超	⇒	34.6	68.6	3.7	7.6

- (b) あなたは、定期的な支払い（公共料金等）の資金決済手段として、最近ではどのようなものを主に利用していますか。（○は2つまで）

1 現金（紙幣および硬貨）	31.0
2 クレジット・カード	51.8
3 電子マネー（デビット・カード含む）	4.4
4 口座振替	48.2
5 その他	2.3

- (c) 現金^(注)の残高は平均してどのくらいありますか。（ゼロの場合は「0」を記入）

(注) 金融機関等に預けていない、ご家庭内にある現金（紙幣、硬貨）のこと。

百万	十万	万円
	3	2

問 1 5

現在、借入金はありますか。ただし、月賦払いの未払金やリボルビング方式^(注)による未払金は対象に含め、1～2か月後に決済するクレジットカード利用ツケ買いによる未払金は除きます。(〇は1つ)

(注) リボルビング方式とは、あらかじめ設定した借入金額の利用限度枠内であれば何回でも利用でき、最初に決めた一定額を毎月、返済する借入方式のこと。

1 借入金がある。 16.4

2 借入金がない。 83.6

→ 問 1 8 へ

【問 1 5 で 1 と回答した方にお聞きします。】

問 1 6

現在の借入金残高とそのうちの住宅ローン残高、および新規借入額、年間返済額をご記入ください。(ゼロの場合は「0」を記入)

	億	千万	百万	十万	万円
現在の借入金残高合計			4	8	3
うち住宅ローン残高			2	8	5

※左表の「現在の借入金残高合計」および「うち住宅ローン残高」は、借入金残高がある世帯のみを対象とする平均値。

	億	千万	百万	十万	万円
新規借入額			5	1	6
年間返済額				5	2

※左表の「新規借入額」は新規借入額のある世帯のみ、「年間返済額」は年間返済額のある世帯のみを対象とする平均値。

問 1 7

どのような目的で借入れを行いましたか。次のうちから借入目的を選び、該当する番号に〇印をつけてください。(〇は3つまで)

- | | | |
|----|-----------------------------------|------|
| 1 | 医療費や災害復旧資金にあてるため。 | 6.3 |
| 2 | こどもの教育、結婚資金にあてるため。 | 2.0 |
| 3 | 住宅（土地を含む）の取得または増改築などの資金にあてるため。 | 14.4 |
| 4 | 日常の生活資金にあてるため。 | 32.7 |
| 5 | 耐久消費財（自動車、家具、家電等）の購入資金にあてるため。 | 16.3 |
| 6 | 旅行、レジャーの資金にあてるため。 | 17.8 |
| 7 | 株式等金融資産への投資資金にあてるため。 | 3.2 |
| 8 | 土地建物（マイホームは除く）等の実物資産への投資資金にあてるため。 | 2.7 |
| 9 | 相続税対策のため。 | 0.0 |
| 10 | その他 | 34.4 |

【全員にお聞きします。】

問 1 8

(a) あなたの現在の家計全体のバランスについて、以下の中から最も近いものをお選びください。(○は1つ)

- | | | |
|---|---|------|
| 1 | 住宅ローン等の借入りに比べ、資産（持家および金融資産等）の総額は時価で見て大きいので、資産と負債のバランスにはゆとりがある。 | 6.6 |
| 2 | 住宅ローン等の借入れがあるものの、資産（持家および金融資産等）の総額も時価で見てそこそこあるので、資産と負債のバランスについて不安はない。 | 4.0 |
| 3 | 住宅ローン等の借入りに比べ、資産（持家および金融資産等）の総額は時価で見て小さく、資産と負債のバランスに不安を抱えている。 | 6.4 |
| 4 | 資産と負債のバランスについては、意識したことがない。 | 83.0 |

(b) 家計は、消費支出の増減、金融資産の増減、土地・住宅の購入・売却、借入の増加や返済、収入の増減といった要素で成り立ちますが、あなたの過去1年間の家計の運営について、以下の中から最も近いものをお選びください。(○は1つ)

- | | | |
|---|-----------------------|------|
| 1 | 思ったより、ゆとりのある家計運営ができた。 | 5.4 |
| 2 | 思ったような家計運営ができた。 | 19.7 |
| 3 | 思ったより、家計運営は苦しかった。 | 32.4 |
| 4 | 家計運営については、意識したことがない。 | 42.4 |

問 1 9

(a) あなたは、将来のことを考えて生活設計を立てていますか。

(○は1つ)

- | | | |
|---|------------------------------|------|
| 1 | 生活設計を立てている。 | 29.9 |
| 2 | 現在生活設計を立てていないが、今後は立てるつもりである。 | 42.1 |
| 3 | 現在生活設計を立てていないし、今後も立てるつもりはない。 | 28.0 |

問 2 0 へ

【(a)で1と回答した方にお聞きします。】

(b) 何年くらい先まで考えて生活設計を立てていますか。(○は1つ)

- | | | |
|---|----------|------|
| 1 | 1～2年先まで | 14.6 |
| 2 | 3～5年先まで | 27.7 |
| 3 | 10年先まで | 28.4 |
| 4 | 20年先まで | 11.8 |
| 5 | 20年より先まで | 17.5 |

(c) あなたは、生活設計と一緒に、将来の必要となる資金を貯める運用計画まで立てていますか。(○は1つ)

- | | | |
|---|-------------------------------|------|
| 1 | 資金計画を立てている。 | 58.4 |
| 2 | 現在は資金計画を立てていないが、今後は立てるつもりである。 | 31.3 |
| 3 | 現在資金計画を立てていないし、今後も立てるつもりはない。 | 10.3 |

【全員にお聞きします。】

問 2 0

あなたは、現在どのような住居にお住まいですか。（○は1つ）

持ち家なし	1 民間の賃貸マンション・アパート、借家	57.2	持ち家あり	5 ご自身が購入した家屋マンション	17.4
	2 公団公営の賃貸アパート	9.1		6 相続または贈与を受けた家屋マンション	9.0
	3 官舎、社宅	4.6			
	4 間借、親または親族の家、その他	2.8			

【問20で1～4と回答した方にお聞きします。】

問 2 1

マイホームを取得していない方にお聞きします。

あなたは、何年先にマイホームを取得する予定ですか。（○は1つ）

1	今後3年以内	3.4
2	5年以内	3.6
3	10年以内	8.4
4	20年以内	3.7
5	20年より先	1.2
6	親からの相続等によるので、いつになるかわからない。	4.2
7	マイホームの取得については目下のところ考えていない。	35.0
8	将来にわたりマイホームを取得する考えはない。	40.5

【全員にお聞きします。】

問 2 2

マイホームを取得ないし買い換える予定がある方にお聞きします。

マイホームを取得するのに必要な資金の総額はどのくらいですか。また、その資金をどのように調達する予定ですか。

それぞれについて、下表に金額をご記入ください。なお、買い換えの場合は、新旧物件の価格差ではなく、新規取得物件の方の総額をご記入ください。

	億	千万	百万	十万	万円
必要資金総額		2	6	6	9
うち自己資金		1	3	3	4
借入金		1	3	3	5

問 2 3

あなたは、この1年以内に土地・住宅を取得、増改築、売却しましたか。(〇は1つ)

- | | | |
|---|---------------------------|------|
| 1 | 取得ないし増改築した。 | 1.8 |
| 2 | 売却した。 | 1.0 |
| 3 | 取得ないし増改築し、売却もした。 | 0.5 |
| 4 | 取得、増改築、売却ともにしていない。 → 問25へ | 96.7 |

【問23で1～3と回答した方にお聞きします。】

問 2 4

この1年以内に土地・住宅を取得ないし増改築、売却した方にお聞きします。

土地・住宅を取得ないし増改築するのに必要な資金の総額はどのくらいでしたか。また、売却された方は、どのくらいの金額で売却されましたか。下表に金額をご記入ください。

(取得ないし増改築した場合：問23で1または3と回答した人)

	億	千万	百万	十万	万円
総額			9	0	4
うち自己資金			5	3	2
借入金			3	7	2

(注) ゼロを含んだ平均値。

(売却した場合：問23で2または3と回答した人)

	億	千万	百万	十万	万円
総額			9	4	9

(注) ゼロを含んだ平均値。

【全員にお聞きします。】

問 2 5

あなたは、老後の生活費として、毎月最低どれくらい必要と思いますか(現在の物価水準を基準にお答えください)。

百万 十万 万円

	2	6
--	---	---

また、老後の生活資金として、年金支給時に準備しておけばよい金融資産残高は、最低どれくらいだとお考えですか。

億 千万 百万 十万 万円

	2	7	7	1
--	---	---	---	---

問 2 6

あなたは、老後の暮らし（高齢者は、今後の暮らし）について、経済面でどのようになるとお考えですか。（○は1つ）

- | | | |
|---|--------------|------|
| 1 | それほど心配していない。 | 15.5 |
| 2 | 多少心配である。 | 33.6 |
| 3 | 非常に心配である。 | 50.9 |

【問 2 6 で 1 と回答した方にお聞きします。】

問 2 7

それほど心配していない理由は、次のうちどれですか。（○はいくつでも）

- | | | |
|----|--------------------------------------|------|
| 1 | 十分な金融資産があるから。 | 22.9 |
| 2 | 退職一時金があるから。 | 9.3 |
| 3 | 年金（公的年金、企業年金、個人年金）や保険があるから。 | 36.6 |
| 4 | 生活の見通しが立たないほど物価が上昇するとは考えられないから。 | 12.1 |
| 5 | 十分な金融資産はないが、老後に備えて着々と準備（貯蓄など）しているから。 | 14.9 |
| 6 | 再就職などにより収入が得られる見込みがあるから。 | 5.2 |
| 7 | 不動産収入（家賃、地代等）が見込めるから。 | 4.9 |
| 8 | こどもなどからの援助が期待できるから。 | 2.3 |
| 9 | 親などからの遺産が見込まれるから。 | 6.2 |
| 10 | その他 | 30.9 |

【問 2 6 で 2 または 3 と回答した方にお聞きします。】

問 2 8

多少心配である、非常に心配である理由は次のうちどれですか。（○はいくつでも）

- | | | |
|----|--------------------------------------|------|
| 1 | 十分な金融資産がないから。 | 71.4 |
| 2 | 退職一時金が十分ではないから。 | 16.4 |
| 3 | 年金（公的年金、企業年金、個人年金）や保険が十分ではないから。 | 52.3 |
| 4 | 生活の見通しが立たないほど物価が上昇することがあり得ると考えられるから。 | 20.5 |
| 5 | 現在の生活にゆとりがなく、老後に備えて準備（貯蓄など）していないから。 | 28.6 |
| 6 | 再就職などにより収入が得られる見込みがないから。 | 12.8 |
| 7 | 家賃の上昇により生活が苦しくなると見込まれるから。 | 6.4 |
| 8 | マイホームを取得できる見込みがないから。 | 5.6 |
| 9 | こどもなどからの援助が期待できないから。 | 12.3 |
| 10 | その他 | 12.0 |

【全員にお聞きします。】

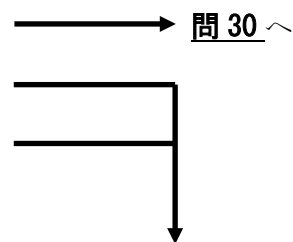
問 29

(a) 老後の生活費は、どのような収入源によってまかなおうと思っ
ていますか。または、現在まかっていますか。主な対応をお答えください。
(○は3つまで)

1 就業による収入	44.2
2 公的年金	54.8
3 企業年金、個人年金、保険金	27.5
4 金融資産の取り崩し	24.0
5 利子配当所得	7.9
6 不動産収入（家賃、地代等）	4.1
7 こどもなどからの援助	1.6
8 国や市町村などからの公的援助	10.0
9 その他	12.2

(b) 年金について、お聞きします。あなたは、年金（公的年金・企業年金を含み、個人年金は除きます）で老後の必要資金をまかなえると思っ
ていますか。（○は1つ）

1 年金でさほど不自由なく暮らせる。	5.4
2 ゆとりはないが、日常生活費程度はまかなえる。	36.4
3 日常生活費程度もまかなうのが難しい。	58.2



【(b)で2または3と回答した方にお聞きします。】

(c) その理由についてどのようにお考えですか。主な理由をお答えください。

(○は2つまで)

1 物価上昇等により費用が増えていくとみているから。	21.5
2 年金が支給される年令が引き上げられるとみているから。	27.1
3 年金が支給される金額が切り下げられるとみているから。	47.7
4 高齢者への医療費用の個人負担が増えるともみているから。	16.9
5 高齢者への介護費用の個人負担が増えるともみているから。	14.2
6 その他	20.6

【全員にお聞きします。】

問 3 0

あなたが、仕送りをしたり、受けたりしている場合、月平均でどのくらいの金額ですか。下表に金額をご記入ください。（ゼロの場合は「0」を記入）

(a) 仕送りをしている場合

支払い 約

0	0	4
---	---	---

 万

2

 千円

(b) 仕送りを受けている場合

受取り 約

0	0	5
---	---	---

 万

9

 千円

問 3 1

預金者の保護を目的とした「預金保険制度」があります。同制度によって、金融機関が破綻した場合、決済用預金は全額、それ以外の保険対象預金等については、「1金融機関につき1人当たり元本1,000万円までとその利息」を限度額として、保護されます^(注)。あなたはこの制度をご存知でしたか。（○は1つ）

(注) 金融機関の破綻時には、保護されない預金の一部がカットされる可能性があるが、裁判所の関与により、後日、公平・公正に処理される（金融機関に駆けつける必要はない）。

- | | |
|----------------|------|
| 1 内容まで知っていた。 | 31.8 |
| 2 見聞きしたことはあった。 | 29.0 |
| 3 全く知らなかった。 | 39.3 |

問 3 2

あなたは、ご自分の金融資産などをより安全なものにするため、何かなさいましたか。
(○はいくつでも)

1	金融商品の安全性に関する情報を収集した。	6.8
2	経営内容がより健全で信用度が高いと思われる金融機関に預け替えた。	4.6
3	預金保険が適用される商品に預け替えた。	3.2
4	1つの金融機関に預けた預金金額が1,000万円を超えないように、預け入れ先を複数に分散した。	9.0
5	1つの金融機関に預けた定期預金などの1,000万円を超える部分を、全額保護される決済用預金へ、預け替えた。	1.2
6	1つの金融機関に預けた預金金額が1,000万円を超える部分で、他の資産を購入した。	1.4
7	金融商品の一部を解約したり追加貯蓄をやめるなどして、現金で持つ割合を高めた。	1.2
8	何もしていない。	74.4
9	その他	5.2

問 3 3

取引金融機関を決める場合、どのような理由から選びますか。(○は3つまで)

1	近所に店舗やATM(現金自動預け払い機)があるから。	59.0
2	店舗網が全国的に展開されているから。	24.2
3	インターネットによるサービス・取引などが充実しているから。	26.4
4	金融商品の品揃えが豊富で選択の幅が広いから。	3.4
5	より収益性の高い金融商品を販売しているから。	3.9
6	各種手数料が他の金融機関より割安だから。	12.0
7	金融アドバイザーとしての相談窓口が充実しているから。	2.1
8	経営が健全で信用できるから。	15.2
9	勧誘員が熱心で印象が良いから。	0.9
10	テレビCM、ポスター、キャラクター商品などの印象が良いから。	0.8
11	営業時間が長かったり、土日に営業したりしているから。	3.9
12	個人向けローンが充実しているから。	1.5
13	その他	20.3

問 3 4

(a) あなたは、生活感覚として“経済的な豊かさ”と“心の豊かさ”について、どのように実感していますか。

それぞれ下表の各欄の番号に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	実感している	ある程度 実感している	あまり実感 していない	全く実感 していない
経済的な豊かさ ⇒	3.8	24.8	38.9	32.6
心の豊かさ ⇒	7.6	37.6	34.8	20.0

(b) あなたは、“経済的な豊かさ”を実感するためには、次のうち何が大切だと思いますか。(○は2つまで)

- | | | |
|---|-------------------|------|
| 1 | マイホームなどの実物資産の取得 | 11.0 |
| 2 | ある程度の額の金融資産の保有 | 49.0 |
| 3 | ある程度の額の年収の実現 | 54.8 |
| 4 | 消費財購入やレジャー関連消費の充実 | 17.3 |
| 5 | その他 | 15.4 |

(c) また、“心の豊かさ”を実感するためには、次のうち何が大切だと思いますか。

(○は3つまで)

- | | | |
|---|------------|------|
| 1 | 経済的な豊かさ | 43.4 |
| 2 | 趣味の充実 | 37.9 |
| 3 | 仕事の充実 | 16.3 |
| 4 | 時間的な余裕 | 30.7 |
| 5 | 健康 | 48.4 |
| 6 | 将来の生活への安心感 | 22.9 |
| 7 | 家族とのきずな | 13.9 |
| 8 | 人や社会への貢献 | 5.6 |
| 9 | その他 | 10.5 |

問 3 5

(a) あなたは、金融に関する知識・情報を、主にどこから得ていますか。

(○は3つまで)

1	金融機関から（窓口、パンフレット類、広告、HPなど）	42.5
2	金融の専門家から（書籍、講演会、セミナー、HP、テレビ番組など）	18.7
3	特定の業界に属さない中立公正な団体から（パンフレット類、講演会、セミナー、広告、HPなど）	11.2
4	家族・友人から（会話など）	19.7
5	学校から（授業や講義など）	2.9
6	その他	35.8

(b) あなたは、金融に関する知識・情報が、どのような主体から提供されるのがよいと思いますか。（○は3つまで）

1	金融機関から	38.2
2	金融の専門家から	24.7
3	特定の業界に属さない中立公正な団体から	27.8
4	家族・友人から	10.9
5	学校から	4.1
6	その他	9.1
7	よく分からない	29.0

(c) あなたは、中立公正な立場から金融に関する知識・情報を提供している金融広報中央委員会（愛称：知るぽると、事務局：日本銀行情報サービス局内）についてご存知ですか。（○は1つ）

—— 私ども金融広報中央委員会は、健全で合理的な家計運営のために、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、中立公正な立場からの正確でわかりやすい「金融経済情報の提供」と一人ひとりが賢い消費者として自立するための「金融経済学習の支援」を積極的に展開しています。

1	活動内容まで知っていた。	3.6
2	これまで見聞きしたことはあった。	11.0
3	この調査で初めて知った。	85.4

最後に、あなたについてお聞きします（数字、選択肢でご回答ください）。

(1) 年齢（数字を入力してください）

	4	3	歳
--	---	---	---

(2) 性別（該当する番号を選択し入力してください）

1	2
男性	女性
58.3	41.7

(3) 学歴（該当する番号を選択し入力してください）

1	2	3	4	5	6	7
小中学校	高等学校	専修学校・ 各種学校等	高専・ 短期大学	大学	大学院	その他
1.8	23.2	10.1	9.7	45.8	8.5	0.9

(4) 就業・就学の有無（該当する番号を選択し入力してください）

1	2	3	4	5
就業 (フルタイム雇用)	就業(パート タイム雇用)	就業 (自営業主※)	就学	就業・就学 ともになし
53.7	11.8	9.0	6.8	18.7

※ 自営業主とは、商店主、工場主・飲食店主・支配人、棟梁などの自営職人、牧場主、養殖場主、その他のサービス業主を指す。

(5) 就業先の産業の種類^(注)（該当する番号を選択し入力してください）

1	2	3	4	5	6	7	8	9
農林 漁業	建設業	製造業	運輸業、 郵便業	卸売業、 小売業	宿泊業、 飲食サー ビス業	医療、 福祉	公務、 教育、 電気水道業	その他サー ビス業
0.4	5.2	15.8	3.9	9.8	3.4	9.3	9.8	42.6

(注) 産業の種類については、次頁の一覧にしたがって選択してください。

(6) あなたの過去1年間の手取り収入（税引後）^(注)（数字を入力してください）

(注) 手取り収入とは、就業に伴う収入、年金、不動産賃貸収入、利息収入等の税引き後収入。土地・住宅、株式などの資産売却に伴う収入は除く。

億	千万	百万	十万	万	
		3	1	1	円

(注) ゼロを含んだ平均値。

～以上で設問はすべて終了です。ご協力誠にありがとうございました～

[付]産業の種類

- | | | | |
|---|------------------|-------|---|
| 1 | 農林漁鉱業 | ………… | 農業、林業、漁業、水産養殖業、鉱業、採石業、砂利採取業 |
| 2 | 建設業 | …………… | 総合工事業、一般土木建築工事業、土木工事業、舗装工事業、建築工事業、木造建築工事業、建築リフォーム工事業、大工工事業、とび・土木・コンクリート工事業、鉄骨・鉄筋工事業、石工・れんが・タイル・ブロック工事業、左官工事業、板金・金物工事業、塗装工事業、床・内装工事業、その他の職別工事業、電気工事業、電気通信・信号装置工事業、管工事業、機械器具設置工事業、その他の設備工事業 |
| 3 | 製造業 | …………… | 食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業、繊維工業、木材・木製品製造業、家具・装備品製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業、印刷・同関連業、化学工業、石油製品・石炭製品製造業、プラスチック製品製造業、ゴム製品製造業、なめし革・同製品・毛皮製造業、窯業・土石製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、金属製品製造業、はん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、その他の製造業 |
| 4 | 運輸業、郵便業 | ……… | 鉄道業、道路旅客運送業、道路貨物運送業、水運業、航空運輸業、倉庫業、運輸に附帯するサービス業、郵便業 |
| 5 | 卸売業、小売業 | ……… | 各種商品卸売業、繊維・衣服等卸売業、飲食料品卸売業、建築材料・鉱物・金属材料等卸売業、機械器具卸売業、その他の卸売業、各種商品小売業、織物・衣服・身の回り品小売業、飲食料品小売業、機械器具小売業、その他の小売業、無店舗小売業 |
| 6 | 宿泊業、
飲食サービス業 | ……… | 宿泊業、飲食店、持ち帰り・配達飲食サービス業 |
| 7 | 医療、福祉 | …………… | 医療業、保険衛生、社会保険・社会福祉・介護事業 |
| 8 | 公務、教育、
電気、水道業 | …………… | 国家公務(他に分類されないもの)、地方公務(他に分類されないもの)、学校教育、その他の教育、学習支援業、電気業、ガス業、熱供給業、水道業 |
| 9 | その他サービス業 | | 情報通信業(通信業、放送業、情報サービス業、インターネット付随サービス業、映像・音声・文字情報制作業)、金融・保険業(銀行業、協同組織金融業、貸金業、クレジットカード業等非預金信用機関、金融商品取引業、商品先物取引業、補助的金融業等、保険業<保険媒介代理業、保険サービス業を含む>)、不動産業、物品賃貸業(不動産取引業、不動産賃貸業・管理業、物品賃貸業)、複合サービス事業(郵便局、協同組合<他に分類されないもの>)、学術研究、専門・技術サービス業(学術・開発研究機関、専門サービス業<他に分類されないもの>)、広告業、技術サービス業<他に分類されないもの>)、生活関連サービス業、娯楽業(洗濯・理容・美容・浴場業、その他の生活関連サービス業、娯楽業)、サービス業(他に分類されないもの<廃棄物処理業、自動車整備業、機械等修理業、職業紹介・労働者派遣業、その他の事業サービス業、政治・経済・文化団体、宗教、その他のサービス業、外国公務>)、分類不能の産業 |